

第2回 あかいわ☆しらせ隊 熊山英国庭園 H29.8.20

●ワークショップ

- 松下先生の勉強会での感想
- ①～④の自分たちのテーマについて、より話し合いが深まるには、どんな資料があればよいか、また 結論を見出すための方策等について

グループ①

- 一人ひとりが当事者になるということが大切だと思った。赤磐市に住んでいるそれぞれが当事者になるにはどんなことをすればいいかということで、一人ひとりが持っている得意なこと、好きなこと、したいことを共有できるホームページや広報紙の1ページでもいいので、そういう場があれば一人ではできないけど何人が集まればできることも増えていくのかな。したいことをできる場所がない。空き家も増えているので、空き家をフリースペースにして、会場にできるような場所にしたり、それが難しければ、公民館等今ある施設の中で自由に使える、いくらか費用を負担してでもしたいことをしたいように使える場所の確保をすることが大事かなと思った。

グループ②

<感想>

- 学校の授業で若者議会ができないか、赤磐に導入できたら。南区（相模原市）の若者参画プロジェクトのようにしていけたらいいなと思った。
- はっぱビジネスとか、いろんな人が得意分野でそれぞれができることについて、力を発揮していく方が継続してまちが発展していくと思った。
- 自分たちが考えていたまちづくりというものを今まで感じていたことと違っているなと思った。
- 阪神淡路大震災ではないが、きっかけがないとなかなか行動に移すことはできないと思った。何かきっかけ作りがあればと感じた。

<資料>

- バスの路線マップ ・地区の人口一覧、子どもの数 ・スーパー、コンビニ、病院等の人が集まる場所のマップ ・町内会の祭りの数 ・工場とか働く場所がどこにあるかを知れたら。

グループ③

- 若者参加の事例が参考になった。
- イベントや夏祭りをまとめて祭りを開催。
- 若者を活用してフリースペースを造る。
- 環太平洋大学の学生を山陽団地の空き家に誘致する。横浜の事例のようにボランティアをすることでまちづくりにつなげたらいいと思った。

グループ④

- 赤磐市の強みはなんだろう、農業が赤磐の強み。農業体験やボランティアの事業を推進していけるような活動をすればいいのでは。例えば農業をやりたい、都市部や赤磐市の人を対象に種まきから収穫まで 1年ぐらいの長いスパンで農業体験をしていくことで、知識が必要だったり、始めてから止める人をなくすために体験をしてもらう。
- 野菜の収穫体験、ボランティアでしたらすごく人が集まったという事例もあるので、し

たらどうか。草刈体験、家族連れで成功した事例があるので、したらいいと思った。

- プレゼンコンテストで、よそ者・若者・ばか者を活用するために開いて、赤磐の人、県外の人に来てもらう。企業から賞金を出してもらう。
- 農業の魅力を伝えるフォトコンテスト、農業をしているところ。
- アイドルを作る。赤磐で有名な作物をあげてレンジャーを作り、赤磐を発信。例えば、緑はぶどう、黄色は黄にら、紫はなす、ピンクは桃みたいな。

※松下先生から一言

- 当事者にする。今までは他人事で済んでいた。どうすれば自分事になっていくか。機会がない。楽しいイベントや仕組みづくり、そういう中で自分たちで当事者となって考えていく。そういう仕組みづくりを考えていく、きっかけ。当事者になると全然違う。自分事にしていく機会がまちづくり。楽しそうにしている。そういう会で当事者から伝えていく。無理しないで。その後意識してもらう。困ったことがあれば連絡ください。アドバイスします。

